

資料 前回までの検討会議の論点整理

論点（意見）整理

■ ライフライン、エネルギー系のバックアップ	県の防災力強化の観点から、電力・ガス等のライフラインのバックアップについて拠点とセットで検討が必要
■ 拠点周辺のアクセスが機能することの担保	周辺アクセス道路の液状化リスクを考慮すべき
■ 防災拠点単独ではなく、周囲を含めた構想	周囲にライフライン企業の拠点等が集積する等の構想について、拠点整備と合わせて検討すべき
■ 平時における施設の有効活用	平時の有効活用を考えながら、有事の際に支障が生じないよう、平時において一定の空間を確保しておくべき
■ 防災拠点が被災した際のバックアップの検討	BCPの考え方により、拠点が被災した際のバックアップを検討すべき。既存の防災施設や、富士東部地域などのエリアを考慮して一体的に考えるべき
■ 通信環境の確保	拠点側の設備が原因で通信障害が発生しないよう、十分な通信環境を確保すべき
■ 災害時の優先利用を念頭に置いた日常利用との両立	フェーズフリーの考え方による事前の機能設計が必要、災害時に施設を優先利用できるよう管理者と調整しておくべき
■ 災害時の電力供給	電力の供給がストップすることに備え、自家発電等の代替策を検討すべき
■ 設備の検討	物資拠点におけるフォークリフトの用意など、用途に応じて設備を検討すべき
■ 医療系のバックアップ	医師や医薬品など、リニアを活用した迅速なバックアップ機能を検討すべき
■ 被災者支援におけるバックアップ	被災住民や帰宅困難者の受け入れ機能・拠点を検討すること。人工的に第二のふるさとを作る。平時は、都と連携した観光交流などのために用いる
■ 拠点自体の災害リスクが高くないこと	国の防災拠点がある立川と比べ断層地震等の災害リスクが高くないことの確認が必要。また、水害リスクを勘案することも必要。
■ リニア駅と他の建造物との結節の検討	高架駅となるリニア駅と他の建造物との間のデッキ等による結節を検討すること
■ 重車両に対応できる地盤	拠点及び拠点に至る道路が自衛隊等の重車両の進入に耐えうる地盤であること
■ B C P に配慮した分散整備	地域特性を考慮しつつ、県内各地へ進出が可能、かつ、相互補完が可能なよう分散整備する。県庁が被災した場合についても検討する必要がある。
■ 他県との交通接続を考慮すること	防災拠点における他県との交通接続は、既存の高速道路等とのアクセスを考慮しておくこと
■ 官民施設の活用	現状防災拠点に位置付けられていない既存の官民施設の活用を検討すること
■ 東京圏と同時に被災しないこと	東京圏と同時に被災してはバックアップを論じることはできない。
■ 広域後方支援拠点とすること	広域後方支援拠点機能の整備を検討すること。
■ 防災拠点周辺環境整備	ライフライン系企業の防災拠点周辺への集積を検討すること
■ リニアの貨物利用	災害時などリニアを貨物用を使うという選択肢もある
■ 防災研修・交流機能	岩手県遠野市のように、日頃の国土の滞留促進、観光等で貢献できるような構想も検討すること
■ 県内ヘリポートの強化・充実	被災者・物資の輸送について、東京との間、自衛隊ヘリCH-47JA(通称チヌーク)クラスなどが、給油なしで何回もピストン輸送が可能というのは魅力。建物の上であればベター。駐機可能な強度、県内各地への分散
■ 統合調整所の確保等	防災拠点について、既存も含め、各活動部隊の統合調整所を確保し、事前に関係機関で共有すること
■ 県内の孤立化しやすい地域の洗い出し等	孤立化しやすい地域を洗い出しのうえ、関係機関で情報共有したい。
■ 災害時連携協定の充実強化	物資の供給・輸送、重機貸出し、J A 共撰所の物資拠点利用のための協定など